



聖學
敬慎
勉強
講義



三十一
三十一

服部文庫
117
107



後得真藥
小德本

後得真藥
小德本

和氣子

聖學 敬慎講義 勉強



敬慎勉強ハ聖學の第一の功用
故に講義の主意とする也

117
107

聖學講義大意

萬物章 聖學八十一章之一也

萬物一理萬事一心也。故人能知事物之理而後始
可與言道已矣。學者知性知命知鬼神而不惑為美。
性反靜為貴。靜者曷不見。可欲之始也。色之不動財
之不動貴之不動賤之不動威武之不動憂患之不
動窮苦之不動疾病之不動衰老之不動臨死之不
動。夫惟不動貴之至也。孔子曰。性相近也。習相遠也。
惟上智與下愚不移。有教無類。然則人宜自克而反
其始矣。君子何為畏天命乎。以其靡常也。書云。惟上

帝不常。為善降之百祥。為不善降之百殃。易云。積善之家。必有餘慶。積不善之家。必有餘殃。孟氏亦云。禍福無不自已求之者。果知此也。鬼神將福我。非我求鬼神。鬼神與我為一。是謂明鬼。鬼且明。而况於物乎。况於人乎。是謂萬物一理。萬事一心也矣。

それ道も古今あく学も流派なり。学は道をもつもの。謂あり道あり。書も所謂五典も。一は君臣父子の義。義は宜あり。事の宜も合も。二は父子の親。親は愛なり。恩も義なり。三は夫婦の別。別は弁あり。分弁あり。四は長幼の序。序は次なり。次第あり。五は朋友の信。信は實なり。言實なり。此

五徳を以て行へば。孝弟忠恕仁義禮讓恭敬智勇誠信。中和等の徳皆此中に在り。已らば自在。是と云ふ。是は聖学といふ。政の要務あり。人倫の本。基修行の大功。と云ふ。は。ほり。あ。り。他。も。此。も。固。も。の。奇。妙。も。か。く。秘。密。も。か。く。奥。義。も。か。く。免。許。も。か。く。印。可。も。か。く。不。思。議。も。か。く。更。も。か。く。只平生日用の事。あり。て。無。用。に。せ。ほ。る。及。り。古。も。今。も。人。情。も。二。つ。あり。道。も。亦。一。つ。なり。夫。道。は。人。情。の。こ。

孝を百行の本とする所以。天下も父母なき人あり。能く父母を事する人あり。君長を敬忠。兄弟も友。朋友も信。と云ふ。是は。敬。持。す。假。令。戦。場。に。向。ん。は。必。勇。あり。經。濟。も。興。り。

らんは必も功あり近く言ハ石川丈山熊澤了介の語是也
世も或ハ酒ヲ困こまめられ色ヲ溺おぼれぬまじひ人を咎とがる心深こほく
すべし私わがも亦また身みを傷やぶり家いえ破やぶれ人ひとありこれ皆みな身みと弱よふ
とふらざるを知らず其その身みも不ふ仁にんありうら起おこる事ことを戒いましめり
孝こ經けいハ身み體たい髮はつ膚ふこれヲ父母ふぼヲ受うく敢あて毀き傷やぶせしと云いふ
夫おの己の才さいも亦また不ふ教けうあり安やすんぞう人ひとハ仁にん愛あいの教けうありん也
是こゝ百ひゃく禍わざはひの本もと之これ然しかれハ孝こ行ぎやうハ已い終しゆう才さい能のうくもて惟ただ父母ふぼ存ぞん世せい
而已のみ何なにハ以もつて學まなぶハ是こゝも亦また近ちか來き或あるハ學まなぶハ
いふ人ひとあり上かみも亦また失あ言ごんなりぬもいふ人ひとき人ひとはよん付つき
る世よ小人ちやうの儒にう者や多おほく道みちと學まな問とんと別わかれしものも亦また有ある

あり是こゝ解たくハ戰場せんじやうの倡せう狂きやう妄わう行ぎやうの如ごとく内うち五ご典てんの規き矩こあり外そと政せい令れい
の禁きん戒けいなりく自おの己の自じ在ざいの如ごとくをせし事こと罷や退たいくも及およぶ事ことハ
嚮こゝろの仁にん義ぎ忠ちゆう信しん茫ぼう然ぜんたるん事ことの多おほくも如ごとくありん豈あ恥ぢハま
の甚こゝろきふ邪よこしまも亦また諂てんよい論ろん語ご讀よみの論ろん語ごを以もつて
道みちハ大路だいりの如ごとくも貴き賤けん貧ひん富ふ男なん女にょ老らう少せう皆みな安あん穩ゑんまありん事こと
の謂いふは道みち行ぎやういふ人ひとハ譬たとハ山水さんすい險けん阻そ路ろあり處ところとありぬ
非常ひじょう能のう風ふう采さいありん人ひとハ亦また安あん心しんありん人ひとの君きみも亦また
學まなぶと厭いとり羣ぐん臣しんの不ふ敬けい不ふ忠ちゆうと厭いとり人ひとの臣しんも亦また學まな
問とんと忘わすむハ君きみの不ふ仁にん無む礼れい誠せい忌ぎり人ひとの父ちちも亦また學まなぶハ
猶なほ子この不ふ孝こ不ふ養やうを嫌きらむ人ひとの子こも亦また學まなぶハ

父の不慈不義を痛むる人の夫とてその心を怠る妻の
 不貞不順を悪むる人の妻とてその心を怠る夫の苛
 刻少恩薄意を痛むる人の父とてその心を怠る母の
 不友ある人の母とてその心を怠る父の不恭ある
 友生の陰謀を疑用ひざる不信不實あるは是は溢悪の言
 姉妹を極むる友はかく落る凡学問を非毀する人は皆小人
 儒の所為を惑たる形あり
 和漢古今人は五つの宿疾あり早く除くべし棄置すべき痼疾
 とありて生涯の憂とあり一は自美二は自私三は吝過四は
 偽觀五は媚疾なりよく是を除くも亦学者のつて下凡て

已と知く行るも己よ求め己を責る人の君子とてや
 人の天地の中より生れ道は天地に法りたる由とて此の道を推考
 して胸中の迷ひを明ぬ脩身の用とせば即聖人の今日汝離れぬ
 事ありて一に愛する私なきや天の萬物を覆育する如く恩を
 施す徳を垂る地の萬物を承载する如く温和する如く春氣の
 如く威嚴する如く夏日の如く果敢する如く秋季の如く愛敬する
 如く冬日の如く志堅固する如く動する如く山は如く量定る天
 は如く物を容る如く海は如く智深く如く静ある如く洞の如く
 事な如く風雷は如く物徹する如く氣神の如く吾我
 ありて虚空の如く風は起夜はいね其業は怠倦する如く日輪

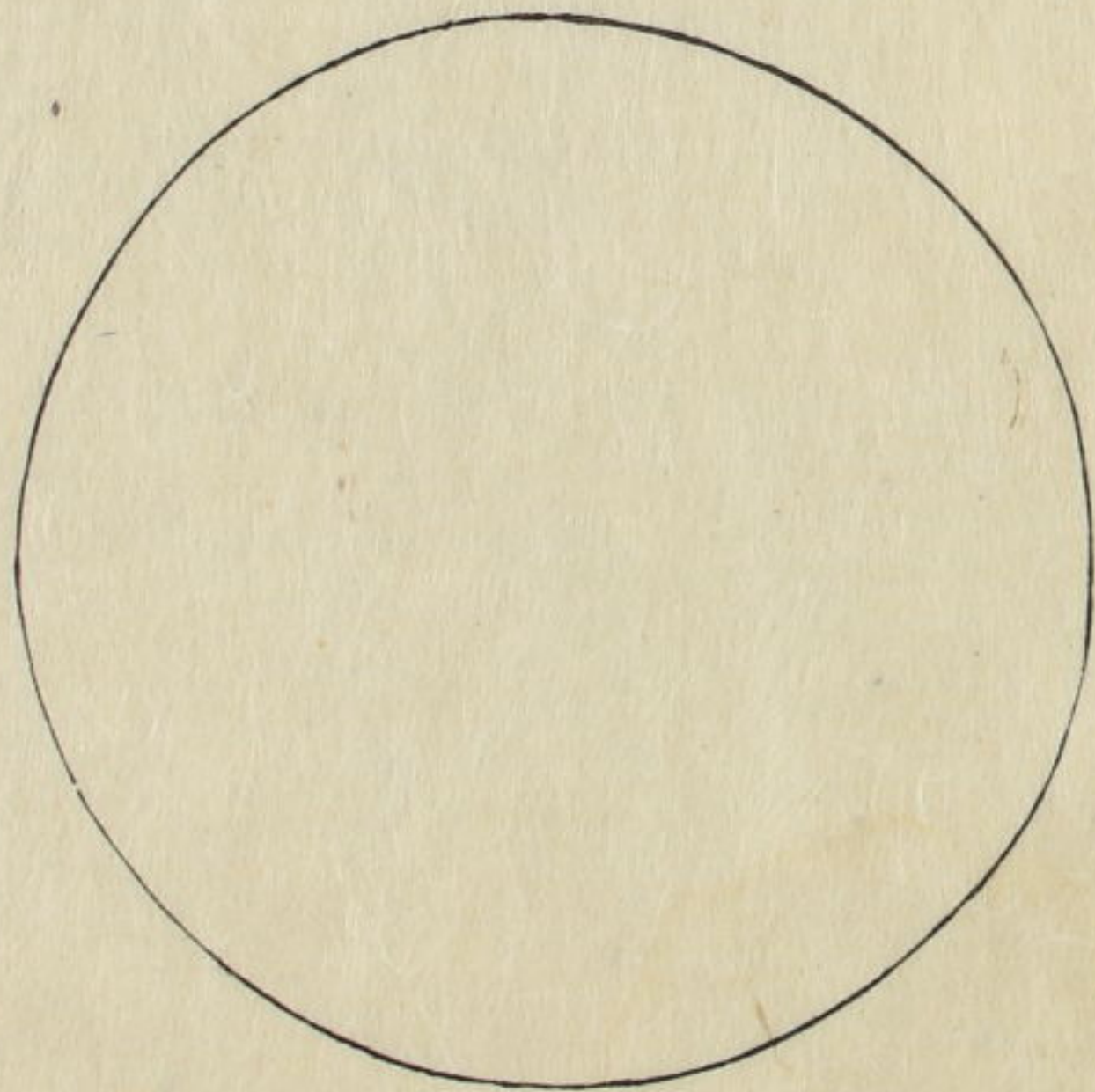
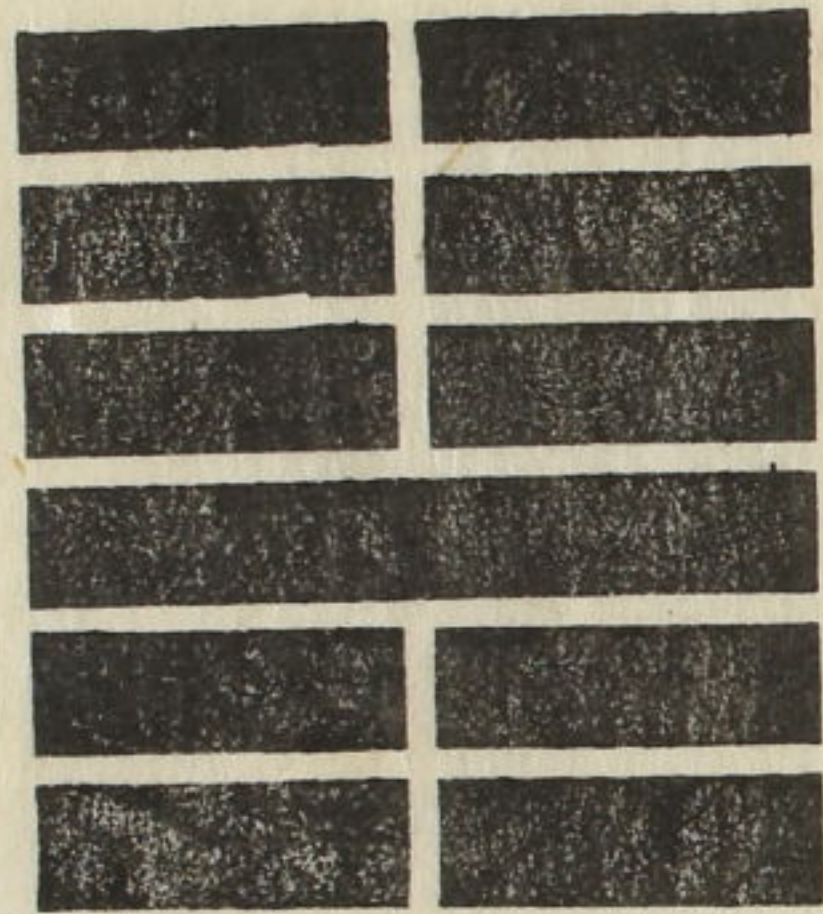
の終古つねに已やまらざるもの一も今の世かゝの如き聖學をと求む人ありハ
目より一丁字ていじ誤りしものも大學者といふ一且士農工商及
以醫神佛の徒皆學ありしものを尊そとぶるも世に或ハ其學を以
て能とく家そのを齊そとふ人あり是子夏のいふる未まと學まひしもの
と雖なほも吾ハ必かならずとこれを學まひしもの如ごとく自然しぜんと云ふもの
道理道理の叶ふ處ありて之書しよを讀よみ物ものの用もちよきもの人あり
ぬれ一巻いっまいを讀よむも亦また道みちよ人ひとありしもの古いにしへ今いま學
者の俗人よ及およびしもの輩たいありしもの偶いご々ごと學問がくもんハ譬たとへハ稻
の如ごとく一穂いっしゆハ九穀くぐくの美うつくしきもの稗わい史しの實じつたるもの

及び一學がくの人間にんげんの最上さいじやうたるもの學がくひありしもの如ごとく
俗人の用もちよきもの及およびしもの鳴なる學者がくしやハ亦また老らうを笑わらひしもの如ごとく
有あるもの如ごとく

人或ハ年老にんじやう或ハ官役くわんやく忙いそ々ご或ハ多病たへいおよそ讀書どくしよをうくす人も
能とく大學の大誼たいぎを聽きはる事ことも物ものも應こたへて正心せいしん誠意せいぎを
求もとむる年とし少せうの色いろ淡たんおもしろくせむかのつら得道とくだうと云ふこと
總すべて學がくの如ごとく篤あつく信しんと云ふもの如ごとく篤あつく信しんの至いたる精誠せいせい神かみに通とほり
聖人の言ことを忽然しぜんとして見みゆ宋そうの趙普ちやうふ一部いぶの論語ろんごを
半部はんぶ讀よみて天下てんかを定さだめ半部はんぶをもて太平たいへいを致いたせしもの
只ただ篤あつく信しん克己こくきの二つふたつありしもの如ごとく已いとむ已いとむ自在じざいと云ふもの

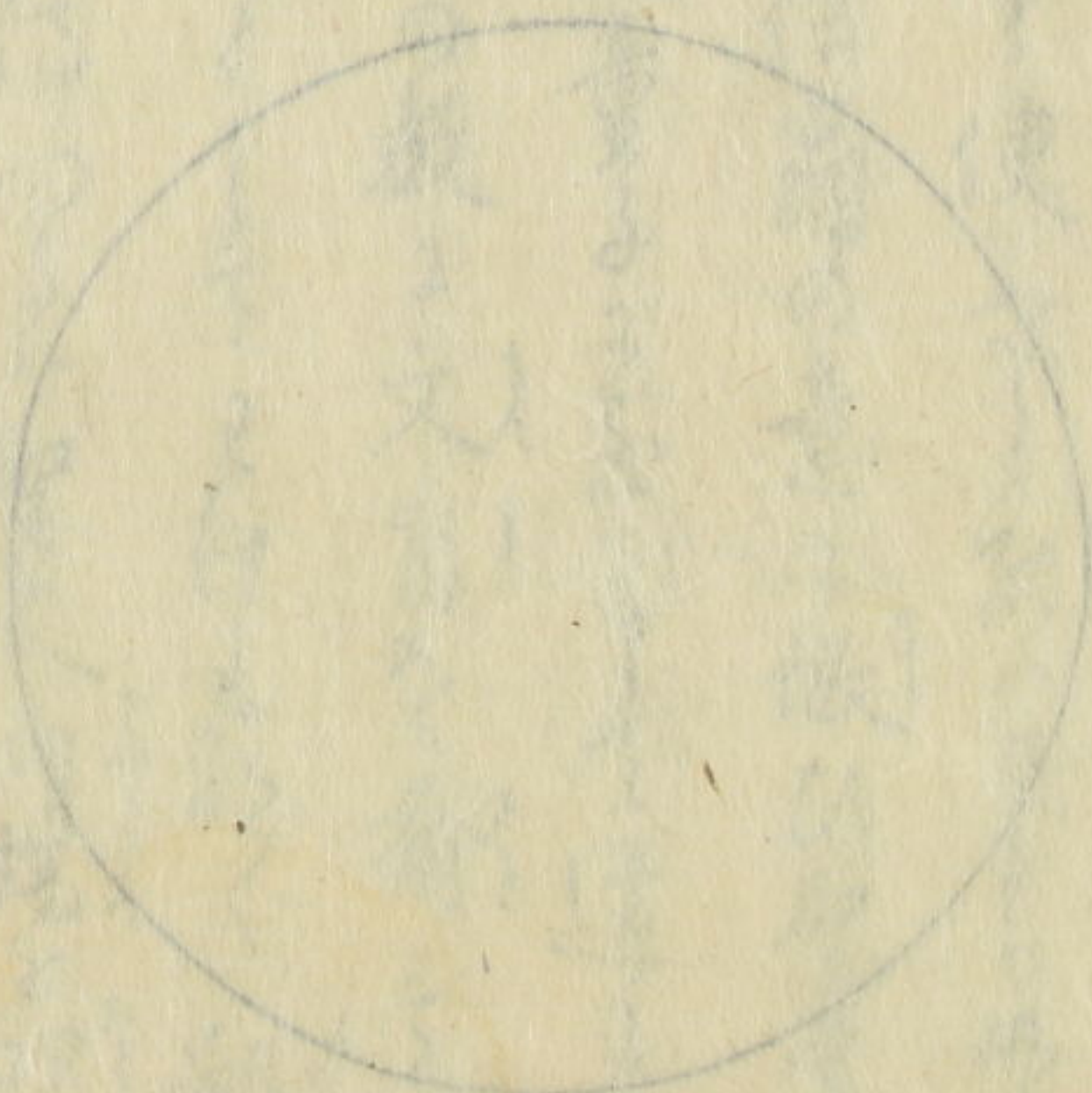
やうふもあつていふべきに已ぬる度と能く人ハ不自由玉極
 いんぐ中風を憂ふもの其體を使つて能くさうの如く
 哀しうらひや余近以貝原篤信翁の意を倣ひ聖学の
 旨を俗談平話に改慶けぬ人童子も玉さうを道と吉
 今あき我志をいふ所の時師の教は文盲を諭すは
 所為よく聖学の人は芻狗の如くしてとけぬ如く鄙
 俗の唱へる逃る我高きこと心はつる聖人両端を叩ひ
 て盡し玉ふの教も連へる我知且もて自ら戒慎すといふ
 ことと志あり

文化七庚午歳 武藏鄙人 和氣行藏述



Blank page with faint bleed-through from the reverse side.

Blank page with faint bleed-through from the reverse side, including a circular stamp and a rectangular stamp.



Small handwritten mark at the bottom left of the page.

Small handwritten mark at the bottom center of the page.

Small handwritten mark at the bottom center of the page.

Small vertical mark on the right edge of the page.

Small vertical mark on the right edge of the page.

